

図書館だより

～ 今月のおすすめ本 ～

子や孫に贈る童話 100

牧野節子

「家族」「友達」「夢」「勇気」などの分野別に、年齢に合った童話作品を紹介したガイドブックです。大人にもおすすめの児童文学 100 作品が掲載されています。本を選ぶときのヒントにどうぞ。(東)

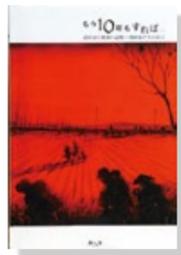


もう 10 年もすれば…

消えゆく戦争の記憶—漫画家たちの証言

中国引揚げ漫画家の会

船が出る港までの、長く過酷な道のりを描いたちばてつやさん、「はじめて見た日本は箱庭みたいにきれいだった」と語る赤塚不二夫さんら、引き揚げを経験した漫画家たちによる証言集。巻頭には、「戦争を知らない世代の方にもこの本をぜひ」とあります。(西)



▶詳しくは、東図書館 ☎ 62・0190
西図書館 ☎ 75・5406) へ。



ごみブクロウの (方法)
『エコな生活ホーホー』教えます!



買い物前に冷蔵庫の中をチェックして「買い物メモ」を作ろう! 必要なときに必要なものだけを買うことで、食材の無駄をなくせるよ。作った買い物メモは、冷蔵庫に貼ると在庫管理表に早変わり。食材の残りも一目で分かってとっても便利だよ。買い物メモを上手に活用して、食べ物の無駄をなくそう!

《生活環境課》

ドクターTのひとりごと

その 27 京都府北部地域が
「海の京都観光圏」に認定

府北部地域は、丹後・丹波山地の山々に囲まれ、山地がすぐに海と面する海岸線には、天橋立、伊根の舟屋など、美しい景観と歴史が息づいています。

縄文・弥生時代には、すでに大陸との交流が活発に行われ、古墳時代には綾部の私市円山古墳、与謝野の蛭子山古墳をはじめとした数千基の古墳が築かれ、海から川を通じ、生活・文化圏が形成されました。室町時代以降に、綾部は足利尊氏との関係が深く、福知山には明智光秀が領主となり、舞鶴には細川幽斎が領主となり、それぞれ福知山城、田辺城を築城し、城下町文化が栄えました。江戸時代には、北前船により、全国の市場との交易が盛んとなり、由良川の水運が経済の動脈として利用され、今日の京阪神に至る内陸交通の礎が築かれました。明治期には、舞鶴に海軍鎮守府が開庁し、阪鶴鉄道や山陰本線の開通など、近代都市として発展しました。戦後、舞鶴港は「引揚港」として、歴史的使命を果たし、2011 年には日本海側拠点港に選定され、東アジア諸国と関西経済圏を結ぶゲートウェイを目指し取り組んでいます。

このたびの「海フェスタ京都」の開催を機に京都府北部 5 市 2 町、心をつなげて、こうした地域の歴史や特性を最大限に活かし、「海の京都」を国の内外に広く発信します。

まいづる花図鑑 97

【ハマベノギク】 (キク科)
見ごろ 7～10 月頃



海岸の砂地や岩場などに生える多年草。富山県以西～九州までの日本海岸に沿って分布する。

莖は、根元からよく枝分かれして地を這い、先が立ち上がって頭花を付ける。莖の葉は長さ 2～2.5 ㎝のさじ形で厚く、ざらつく。夏から秋にかけて小枝の先に頭花を 1 つずつ付ける。

花は径 3～4 ㎝で舌状花は薄紫色、中心の筒状花は黄色。まれに舌状花が白色のものがある。名前の由来は、浜辺に生えるキクという意味から。

【協力】

瓜生勝朗 市文化財保護委員 (植物分野)

「引き揚げ」の記憶を次世代へ

舞鶴引揚記念館に展示・保管している海外からの引き揚げやシベリア抑留などに関する約 1 万 2 千点の資料の中から、今回は「鍋」を紹介します。

当館の展示資料の中には、現在でも家庭で使用されているようなアルミ製の鍋があります。使い込まれてはいるもののまだ十分使用できる状態で、引き揚げ時には、唯一の調理道具として大切にされていました。ふたに開いた小さな穴や、でこぼこした鍋の底が、引き揚げ途中の苦勞を物語っているようにも見えます。

この鍋は、現在の北朝鮮の羅津で暮らしていた引揚者が使用していたものです。戦争が激化してきた昭和 20 年、羅津もたびたび空襲をうけるようになりました。家族で一時的に山中に避難する際には、炊いたご飯を鍋ごと他の荷物と一緒に持って行きました。

しかし、空襲がだんだんと激しくなり、ついに帰宅することができなくなりました。そのまま逃避行することになり、持ち出した鍋も一緒に持って行きました。行くあてのない逃避行は、一日中歩いては野宿をして、たびたび襲ってくるソ連兵におびえる毎日でした。予備の米もすぐに底をつき、近くの畑で取ってきたジャガイモ



▲鍋

や山野草を摘んで、この鍋で煮炊きをしました。偶然持ち出してきた鍋が重宝し、命をつないだのです。

やっとの思いで到着した満州の撫順で、避難民として保護された際に支給された食糧もこの鍋に入れてもらいました。その量は、とても空腹を満たすものではなく、すぐに食べ終えたあとは、ただ鍋の底を見つめるしかありませんでした。

昭和 21 年 6 月によろやく日本に帰国し、辛苦を共にした鍋も持ち帰りました。つらく悲しかった引き揚げの体験を忘れまいと帰国後も大切に保管してきたそうです。

鍋の傷やへこみには、そうした引き揚げまでの苦難の歴史が刻み込まれているのです。

▶詳しくは、引揚記念館 ☎ 68・0836) へ。

広げよう人権の輪 ～ 子どもを守るのは誰 ～

5 月 30 日、神奈川県厚木市のアパートの一室で、男児 (死亡当時 5 歳) の遺体が発見されるという事件がありました。報道によると、男児が 3 歳のときに父親からの暴力に耐えかねた母親が家を出てから、父親が男児の面倒を見ていましたが、しばらくして交際相手ができる週に 1～2 度しか家へ戻らなくなり、男児に満足な食事も与えなくなりました。父親は、やせ細り衰弱していく男児を、育児放棄が発覚することを恐れ病院へも連れて行きませんでした。その後、間もなく男児は 5 歳の短い命を終えました。

発見された日は、男児が生きていれば 13 歳の誕生日でした。誰に看取られることもなくこの世を去り、7 年半も薄暗い部屋の中に放置され続けたのです。亡くなる前の真っ暗な部屋の中に独りぼっちで座っている姿、ひもじさや寂しさにすすり泣く姿、最後の力を振り絞って助けを求める姿が目につかびます。親に見放された幼い命を救い出せなかったことが悔やまれます。

児童虐待とは、子どもに肉体的、精神的および性的な暴行を加えたり、養育を放棄したりすることを言います。児童虐待の背景や要因はさまざまですが、共通

しているのは、親に虐待を行っているという意識が希薄なこと。幼い命を救うためには、周囲の人がこれに気づき、虐待を止めさせなければなりません。児童虐待防止法では、「体に傷がある子どもがいる」「親の怒鳴り声や、子どもの泣き声がいつも聞こえる」など、虐待を発見したり、虐待が疑われたりしたとき、全ての国民に、福祉事務所や児童相談所へ直接、または児童委員を介して通告しなければならない義務があると定めています。

児童虐待は、家族や近所、地域の身近な方々の協力があってはじめて未然に防いだり、早期に発見したりすることが可能となり、子どもたちの大切な命を守ることができます。全ての子どもは、愛され、幸せに生き、育つ権利を持っていますが、その権利を守るのは、私たち大人の役目です。このような悲しい事件が二度と繰り返されないように、地域全体で見守り、協力し合いながら、子どもたちの健やかな成長を支えていきましょう。

《人権啓発推進室》